庭訓武藏鑑

子之春新撰史

二編上

へ13
3223
56

へ13
3223
56

今川庭訓武藏鐙二編叙

夫外題の書の大意と名で号のことあらされとも當時の著作を見ふ予と始書の意ふとふ外題も亦同られあ既ふ門人の冊子の外題の所謂と白地ふ問已ぬるに及ぶ負ふて巻てらく怎麼草双紙の外題のごれい口ろ出まる出ろう外題ふ今川い駿河乃れど武道の誉を云んが爲ふ武藏鐙と名と添へる又序ハ戦場の幕の如く又東相模蓋ふ等く有ても益ふ無ても叶ぶ兎角画解が賞翫られが為ふ半頁ハ筆と費ー骨ふ損しと第外んより作者ふ念と入るはさの方一金禮信ふ傳る呉音表信公が傳る漢音と市存の看客ふ現唐人の寐言より和漢ふ戦治ふと笑れ茶の種ふ七

嘉永五年子春發市

万亭應賀誌

了俊の子息
伊豫双仲秋

今川伊豫守貞世入道して了俊と号す

了俊の奥方

松千代の乳人古川舍人

今川了俊子息仲秋の息松千代の乳人古川舍人を附る

大奥の

駿河
府中の
尼寺
花陽院の
主妙善尼

仲秋の奥方
軍姫の
生霊
八千代の
死霊

弓術
う

奥
岩

矢

岩

岩
勘

岩
勘

山
金
助

万亭作 一雄齋画

若紫冑里壽語録　立亭光彦作　胡蝶樓國盛画

天地人長久壽語録　應賀作　豊國画

風流書翰袋箱入品々

繪半切　千代帛　御進物箱入數品

東錦繪

應賀作
國輝画
芝神明前
若狭屋与市版
二編下

武蔵鐙 二編

芝神明前
岩林堂梓

岩

松
乳
梅

舍人
極
天竜

乳
玉

岩

梅

車

玉

岩

岩
多

玉

梅
玉

神仙かいかくく丸

一粒百銅

法華食物さ合なり

第一悪きるけど物木ハ子茶の食ちゅう中て心ゆ一きふ用てよ

○嵐○病犬○狼○蛇○百足のらんゆ蜜ハ毒ふ中ちふ用てよし

ちて恋ハふ狂かこそぬまこだれいこもむるほ右のめふ知て毒深さ虎毒

用ゆ一一○めまひ○えつこと○一ハのつき○ハちうえ○ハれいこと○食傷

○ちくらん○ちぶり病○刺病○ちゃう風○熱病○せんき○すぐく

○麻病○ちゅうかち○病ハりかろ処の病ふ用て物こ○赤痢ふ用ひてよ

いまだ極きこのめ病ハ一病ゆて物ゆ度病百余ふ人て毒重ふ又七粒用て全

快ちるこ神のじし○かちうじ○虫歯の痛ちよ○ふ知ちの酔酒わちう二日酔ふ

よ一○小児疳病○ハ痢○疝気○ちき脚毒ちよ一ハ毒ちれゆて虫ハ出ハ

らのふ常こ用ひて吉乳こくさ業揚ひなる子ゆ仙ゆ也合投よ入まて
用めべし○撫こ病その外何病ゆ也ゆ病人こ取扱ひこ其ゆ
ゆくろ又ハ春べし生こ番あるうちハ痘とうけこ藤内の方途中ゆ出あき匂ひと
嗅ぎ心地悪きゆ一粒ハ用ひわべし変こてあき病ひとうけこ
○用ひゆうさ高ゆよくゆ元ハ用めべし熱ある病ハ汗をうて即効ふ悪その
外ゆくの名病ふ用ひて即効わるこ拳て粒ハ用ひて発ゆこ考ビ

調合所　清風堂　出羽秋田六郷米町　京野文五郎

賣弘所　若林堂　東都芝神明前　若狭屋與市

取次所　大坂道修町三丁目　大口屋七郎兵衛
越後蒲原加茂　笹川屋勇吉

庭訓武藏鐙　二編　三編　一陽齋豊國画
弓張月春廼宵榮　初編　二編　三編　樂亭西馬作　一雄齋國輝画
鄙物語業平草紙　二編　立亭光彦作　一陽齋豊國画

若

地本東錦繪　東都芝神明前　若林堂若狭屋與市